

2学期制の検討について

山元町教育委員会 令和3年4月

2学期制を検討する背景

○新学習指導要領の着実な実施が求められており、日々の学習において「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善が求められています。学習内容の増加に伴い、授業時数の確保は大きな課題となっています。

○これからの令和の時代の学校教育は、一人一人の児童生徒の可能性を引き出す個別最適な学び（個に応じた指導、指導の個別化と学習の個別化を整理した概念）と学校ならではの協同的な学び合いや探究的な学びを実現することが求められています。

○従来の3学期制よりも、1つの学期が長い2学期制とすることで、余裕をもってじっくりと児童生徒は学習を進めることができ、教師も児童生徒と接する時間を確保しやすくなります。また、自ら課題を見つけ、互いに考えを出し合い深めながら主体的に学習を進めることや個別の支援の充実がより可能となり、新しく「学力向上」に向けた取り組みも展開しやすくなります。

これまでの検討の経緯

時期	内容
令和元年11月	<ul style="list-style-type: none"> ・校長会で意見集約 ・メリット・デメリットの検討（賛成3・反対3） ・近隣地域と共同歩調が必要とのことで保留
令和2～3年	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期制導入の報道等（巨理町・塩釜市・多賀城市・美里町・岩沼市）
令和2年11月	<ul style="list-style-type: none"> ・2市2町教育長会議で2学期制導入を検討することを共通理解
令和2年12月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会定例会で2学期制導入検討について話題提起。（経験者から賛同）
令和3年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度みのりプロジェクト第3回推進会議 ・2学期制導入検討の方向確認

2学期制を導入した場合

メリット

教師が児童生徒と向き合う時間ができることで、学力向上につながる。

授業時数確保など時間的な余裕から、より長いスパンでの学習で深い学びを充実させることができる。

7月や12月に学校行事や体験学習を取り入れることが可能となり、日々の授業や補充学習に力を入れることができるようになる。

デメリット

定期考査までの期間が長くなり、テスト範囲が広がるので生徒の負担が大きくなる。

9～10月に野外活動、修学旅行、学習発表会、文化祭等を行っている学校は行事の見直しや調整が必要になる。

評価の期間が長くなり、学期の区切りとなる休日が数日間しかないので、児童生徒が切り替えの意識をもちにくい。

2学期制と3学期制の一年間の流れ(例)

2学期制と3学期制の一年間の流れ(例)																
3 学期制 (現在)	1学期 (登校70日)						2学期 (登校82日)					3学期 (登校51日)				
	学年始休業日	始業式			終業式(通信表)	夏季休業日	始業式				終業式(通信表)	冬季休業日	始業式		卒業式・修了式(通信表)	学年末休業日
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
2 学期制 (新)	1学期 (登校102日)							2学期 (登校103日)								
	学年始休業日	始業式			夏季休業日		終業式(通信表)	秋季休業日	始業式		冬季休業日			卒業式・修了式(通信表)	学年末休業日	
								10	11	12	1	2	3			

学期と休業日の例

2 学期制 の 一年間	第1学期 4月1日～10月の第2月曜日 第2学期 10月の第2月曜日の翌日 ～3月31日	学年始休業日 4月1日～4月7日(従来どおり) 夏季休業日 7月21日～8月22日(3日間短縮) 秋季休業日 10月の第2月曜日の翌日(新設) 冬季休業日 12月24日～1月7日(従来どおり) 学年末休業日 3月25日～3月31日(従来どおり)
	○山元町小・中学校の2学期制は、教育課程のいっそうの改善を図ることにより、児童生徒の確かな学びの充実を目指すものです。 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的基本的な内容の着実な習得を図るため、必要な授業時数を確保します。 ・予期せぬ自然災害や感染症流行による臨時休業などに柔軟に対応します。 ・一人一人の個別最適な学びを支援できるよう、教師と児童生徒がふれあえる時間を増やします。 	